

森づくり最前線

下越森林管理署 佐和田森林事務所 森林官 山田 隆也

私の勤務する佐和田森林事務所は新潟県沖に位置する佐渡島の佐渡市にあり、関東森林管理局管内で唯一離島にある森林事務所です。

佐渡島はカタカナの『エ』を少し傾けたような形をしており、北部の標高1,000m級の山々が並ぶ大佐渡山脈と南部の比較的緩やかな小佐渡山脈、それらに挟まれたように広く平坦で稲作が盛んな国仲平野が広がっています。海岸線延長は、約280キロメートルあり、広さも約855平方キロメートルと沖縄本島に次ぐ大きさです。

また、観光地では、佐渡金山や特別天然記念物のトキがいる島として有名です。



佐渡島北端・大野亀で見られるトビシマカンゾウの群生地



国有林に飛来したトキ

当事務所は、小佐渡山脈の中央に位置する国有林約1,000㍍と島内に点在する9箇所の官行造林地約790㍍を管理しています。

佐渡島の国有林は、トキの保護繁殖のために昭和37年度から昭和45年度にかけて買入れたものです。そのため、当事務所管内には人工林が少なく、大半が広葉樹の天然林となっており、全域が鳥獣保護区に指定されています。

佐渡島では、トキの野生復帰を目指して平成20年の秋から、2年間で29羽のトキを2回に分け放鳥しました。残念ながらこれまでトキの自然繁殖は成功していませんが、今期は飼育ケージから自然に飛び立たせるソフトリリース方式により群れが形成され、ペアができ、営巣と抱卵まで確認できました。一次放鳥では、トキの雌全てが島を飛び出し本州へ渡ったことから考えると着実な進歩だと思われます。

現在、「平成27年頃に小佐渡東部地域に60羽のトキの定着」を目標に、環境省を中心とした関係機関や地域住民の方々が一丸となって生育環境・社会環境整備の活動を行っています。

下越森林管理署では、その活動の一環としてトキ営巣木等保全整備事業を行っています。トキは主にマツの木に巣作りをし雛を育てていたというデータから、営巣木となる木（アカマツ・コナラ等）を国有林や隣接する官行造林地で選定し保全しています。

また、佐渡島ではマツクイムシやナラ枯れの被害が多く発生しており、候補木の保全のために必要に応じて薬剤の樹幹注入や枯損木伐倒を行い、かつてのようにトキが国有林に飛来してくれることを期待しています。

今年で2年目の佐渡島生活、最初の年はバタバタと過ぎていきましたが、ようやく慣れてきた気がします。森林官として、地元関係機関との打合せや会議等で様々な人と会う機会が多く、専門外の事を聞かれる事もありますが、それでも少しは落ち着いてこなせるようになってきました。職員一人で大変な面もありますが、「色々学び、知識も技術も積み重ねて頑張らな！」と思っています。



アカマツの幹に薬剤を注入